



人間は社会の中に生きるもの
 なれば、引込んでいては駄目、
 なるべく出ることには御座候。
 引込むことは、結局、人間の
 社会に自己を亡ぼし、自己の芸
 術を瘦せ枯らすことに候。

近藤孝太郎

(書翰より)

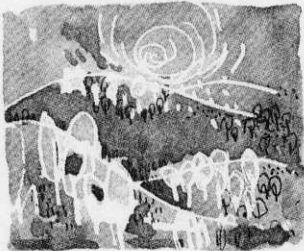
昭和51年2月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



(おにはそと、ふくはうち・梅園小)

一昨年の十一月二十三日、私は飛鳥文化の祖、百濟の古都扶餘を訪ね、さらに新羅王朝榮華の名残をとどめる慶州をあとにして、一路京釜高速道路をタクシーで北上していた。

それは韓国文教部招待教育視察の折に、特に希望して半日間の自由時間を得て、慶尚北道達成郡嘉昌面友鹿洞の寒村を訪ねるためであった。そこには日本人を先祖とする一族が一村をなしているはずである。



韓国に日本人村を訪う

中西 光夫

— 教育随想 —

今から約四百年前朝鮮の役秀吉の軍勢が攻めこんだとき部下三千人をひきいて降伏した清正麾下二十二才の若い部将があった。彼らは李王朝から二品(今の大臣、長官)という官位を賜ってこの村に住みついたのである。その帰化名は金忠善(慕愛堂と号す。日本名は沙也可)一族すべて金姓を名のる。

大邱インターより高速道路を出て、市街地をぬけ途中幾度か道をたずねながら南下する。韓国農村を通り、寿城川に沿って大徳山の奥の山道に入ると右手に嘉

昌中学校がある。さらに坂道を登りつめると、行き止まりらしい山村にぶつかつた。そこには土塀をめぐらし、鹿洞書院と額のかつたりつばな祠堂がある。と前方から韓国服の村人三人が歩いてくる。「ここは友鹿洞ですか、私は日本から来たのですが……」

とたずねると、その中の一人(金南燁)が笑みをたたえ、忘れかけている日本語で、「それはよく来ました。私たちの祖先是日本人です。きょうは金忠善の命日

で、午後からそのお祭りが行なわれます」という。命日に来あわせたとは偶然ながら何という奇縁であろうか、しかし私に与えられた時間はあと三十分のみである。村が一望のもとに見渡せる位置に墓地があり三頂山という。みれば数十名の老人が集まって、それぞれ先祖祭の準備をしている。私を真中に入れての大歓迎である。その中で日本語を解する一老人(金孝泳)が、「きょうは友鹿洞(七十五戸)の人たちだけではなく、全韓国にちらばっている、こ

こを本貫(姓の故郷)とする金姓の同族が、我々の祖先金忠善の霊を祭る為に集まるのだ。

この日にははるばる日本からあなたが独り来たというのは全く思いがけないことだ。今から正装して午後から祭礼の儀式となる。その様子をぜひ、あなたのカメラにおさめて日本にも伝えてほしい」という。しかし残念ながら時間がない。

時間のないことを知った金在徳氏は、家から「慕愛堂文集付実記」という三四〇ページに及ぶ厚い書籍を持って来て、表紙裏に、「岡崎市教育委員会中西光夫先生惠存、慶尚北道清道郡教育長金在徳謹呈」と鮮やかな達筆で署名した。

漸くにして宿願がなつてこの村にたどり着いたばかりで、聞きたいことが山ほどある。しかし時間がない。命日にははるばる来あわせた日本人に祭礼にも参加させたい、説明したいこともある。しかし時間のないことを残念がる十三世の金在徳氏、私は堅い握手を交わして、いつまでも手を振って別れを惜しんでくれる村の方々に心を残しながら三頂山を辞した。

思えば秀吉朝鮮の役に、日本人で朝鮮に残り、李王朝に仕え韓国に住みついた金忠善と四百年を経過してもなお一村を形成しているその子孫を思い、逆にその折朝鮮から日本に来て鍋島藩に住み、陶磁器の工法を伝え、有田・伊万里焼の陶祖となつた李參平(帰化名金ヶ江三平衛)とをくらべながら、両国の交流に思いを馳せたのである。(新城市教育長)

いまはむかし



視聴覚教材(映画)

教師が活弁に

年に一度の映画会。無声映画ゆえ、先生が弁士に早がわり。懐中電灯をたより、シナリオ見ながら熱弁をふるう。

「……彼はこの逆境にもめげず、病弱の母親を抱え、父亡きあと、けなげにも車引きを続けたのであります……」
蓄音器から流れる感傷的なメロデーに子どもたちは泣いた。

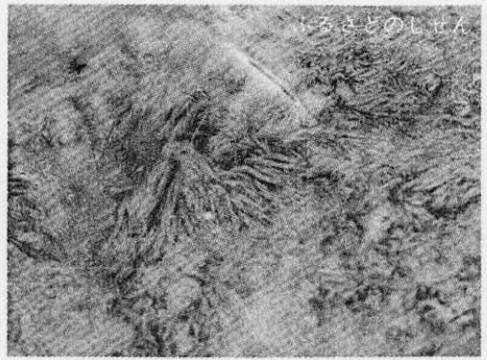
フィルム抱え逃げ回る

太平洋戦争も敗色濃い十九年。空襲警報下、名古屋までフィルムを借りに行く。敵機が頭上をかすめ機銃掃射、大きなふるしきを抱え右往左往、命からがら熱田の森へ逃げ込む。線路も一部破壊されたが、辛うじて岡崎へたどり着く。その夜の映画会が出た諸七分、米三分の夕食の味は、今も舌に残る。

洗濯室で発足したライブラリー

ないないづくしの教材教具、そこへ新しく社会科が登場、理科も内容がガラッと変わり、教師はお手上げ……。

そこで、児童生徒から毎月五円ずつ集めて教材フィルムの共同購入となつたわ



乙川に清流を

— 岡崎の水質 —

乙川は、男川・竜泉寺川・山瀬川・鉢地川・伊賀川・早川など、幾多の河川が南北から流下し、八帖頭首から矢作川に流入する。岡崎市民に最もなじみ深い河川である。ただ市の中央を流下しているというだけではなく、上水道用水、農水産用水、工業用水等に利用され、我々の生活とは切っても切れない関係の川である。最近の人口増加、生活上、産業発展が水需要をさらに増加させ、水質汚濁防止が現在大きな課題となっている。

〈よこれのものさし—BOD〉

水質汚濁についての一つの基準として

BOD（生物化学的酸素要求量）がある。これは、水中の有機物が微生物の働きによつて分解される時、消費される酸素の量のことをいい、この数値が小さいほどきれいな水であるということが出来る。この値が大きければ魚も安住できないということである。

〈乙川の水はきれいになったか？〉

昭和46年度からの総計を見ていたのだが、49年度が前年にくらべて大きく下がっていることを読みとることが出来る。これは49年度が全般的に雨量が多かったことや産業不振による影響も無視できないが、市の環境課が中心となり、乙川に清流をとりもどすために目を光らせている効果のあらわれだと考えることができる。岡崎市では、国の水質汚濁防止法より五倍もきびしい、市独自の公害防止条例を設け、各工場・団地等の指導にあつている。

最近では、工場排水よりむしろ公共下水道の完備されていない住宅の排水（台所・浄化槽など）が問題となつてきており、下水道の完備が急がれている。

〈水を監視する〉

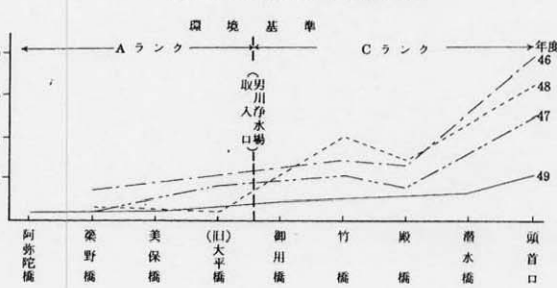
BOD以外にも水質のよこれをあらわす数値が数多くある。また、六価クロムはじめ各種の重金属イオンの含有量も特に気かりな問題である。岡崎市では乙川を対象に全国でも珍しい水質汚濁負荷量の調査を行なっている。

汚濁物質が多くても流量が多ければPM値が小さな値になってしまう。汚濁

総量を算出してもつときびしく水のよこれを監視しようというのである。実際は大変な仕事である。極寒の一月にも、調査員は水中に入り、採水だけでなく一地点数か所の水深を測定して河川断面図を描き、流速計で測定した流速とから一日推定流量を算出し、汚濁負荷量をもとめるのである。

こうした、地道ではあるが着実な調査活動が私たち市民の生活を守っているのである。この文を書くにあたり資料提供をいただいた市環境課のご協力に感謝いたします。（東海中 高橋明敏）

乙川BOD変化図（年間平均）



（写真はよこれた水質を好んで繁殖するらん藻類）

け。当時としては、全国にもあまり例を見ない企画として注目されたが関係者の熱意と父兄の協力があつたればこそ。

昭和二十八年、美川中学校の洗濯実習室を改造、不足分は前借りしてフィルムを購入してやつと発足したのであつた。

その後、ライブラリーは梅園小を経て現在の図書館へ移され今日に至る。

ライブラリーから教室へ

「いつでも、だれでも、どこへでも注文に応じます。」がモットーで活動を開始。トヨタの試作した救急車を格安で購入、まさかサイレンを付けたまま走ることまで、あちこち改造、専任の運転手も雇う。電話一本で早朝から深夜までフィルムを運搬したもの。

盛んに行われた野外映画会

夜はPTAや婦人会の資金稼ぎの映画会に。運動場にポールを立て、カーテンのスクリーンを張る。観客はその裏と表から見るといったあんばい。終わって、ほつと我に戻ってみると、夜露でシャツがぐつしよりぬれていた。

祭りの余興として、娯楽の少なかった農村では大歓迎。さて始めてはみたものの、どうしてもピントが合わない。それもそのはず、酒が回ってしまい、かんじんのフィルムもうまく回らない。帰りは暗い山道で自転車ごと泥田へまっさかさま。せつかつく重話のごちそうもだいなしになったこともある。

（阿部俊房・石川博・大谷純夫・宇野）
（正一先生などのお話から）

全校歯みがき

常磐東小学校

「五年ほど前からでしょうか。日課に組み込んであって、給食が終り次第・ゴシゴシというわけです。歯ブラシは全員教室に保管してあります。コップですか、牛乳を飲むでしょう。瓶を洗いながら、コップ代わりに使っています。一挙兩得なんです。」

養護の先生は明るく答えてくれた。

「子どもを連れて康生まで虫歯治療に通ったんでは、半日暮れてしまう」切実な声ではあった。といって見過ごすことができなかった。治療から予防へ。積極的に学校の姿勢を切り変えた。

「喜んでやっていますよ。高学年ほど



▲真白い歯、心までみがかれた顔々。

しつかりみがきますね。それだけ自覚しているんだと思います。歯みがきテスト剤を使って歯みがき後のよこれの残り具合なども調べさせています。」

全校一斉朝の十分間読書

矢作西小学校

朝清掃終了のレコードが鳴る。

それから十分後、清掃時にみせた子どもたちのげいしき動が、びたりと止まって、校内が静まり返る。

静かに流れるハイドンの「ひばり」の音楽をバックに十分間読書が始まる。

ほほづえをつきながら、フアンタスチックな世界にひとり誘い込まれて読みふ

磨く

特別活動の分野は広い。そして、子どもの主体的な関わり合いが強く望まれる。それだけに独創と深化の余地が大きい。そこで、週行事や日課として位置付けられた活動についてインタビューを試みた。

子ども同志が身と心とを磨き合う機会をたいせつにしたいと願う。



▲書物を通して広がる世界、私の心の世界。

ける子。世界のふしぎや、科学のふしぎに、つい、友だち同志、小声で話し合っているグループ。突然、時ならぬ大声が聞こえるのは、物語の進展予想に対する反応であろうか。そんな中で、読後の感想を黙々と綴る子の鉛筆の動きをみつめる担任の姿。

十分間は、あつという間に過ぎる。いつまでも本から目をはなそうとしない児童が、印象的である。

音楽集会

三島小学校

「音楽って楽しいですよ、ひとりでも歌っても四十人で演奏しても。まして、何百人かの声が、音が、ピタッと揃ったとき、学級では味わえないスケールの大きさが生み出す感動、シーンとしますよね。」

音楽主任、長谷川先生のことばである。



▲息の合った合奏、響き合う心。

（はにかみながら）「音楽の生活化っていうことでしょか。」

（いたずらっぽく）「伴奏や指導法など先生にとってたいへん勉強になりますよ。」

「ええ、先生と子どもたちとの息が合っていますから。毎回感動しますよ。高学年と低学年に分けて隔週なんです。年間計画が作ってありまして、学級演奏を中心としてそのあと全体練習曲目を扱うんです。全体練習曲は子め子どもたちに知らせてあるんです。ええ、ピタリ合わせますよ。訓練だと思えますねえ。音感が良くなりました。」

「四十六年度から始めましたので五年目になりますか。それなりの苦労はありますが、続けることに全校の先生方が意義を見つけておつていただけるからではないでしょうか。」



▲心が通じたよろこびを語り合う。

ペンパルクラブ

矢作中学校

「私の英語が通じるだろうか」
強い不安とそれにもまして強い好奇心
とがまぎった顔々。

四月に誕生したばかりのクラブ。初め
て相手を意識した英文のなんと難しく魅
力的であったことか。書き直しにつづ書
き直し。でも、返事が海を越えて私の手
に届いたときはまさに感激。言葉つて生
きているんだなあとしみじみ感じるとと
もに、外国がすつと私の心に入りこんで
きたみたい。(生徒の声から)

「言葉は意志を通じ合う道具だ。本物
に触れさせたい。そして、生の外国の生
活の息吹を感じてくれたら。こんな願い
が出発点だった。」

近頃では、プレゼントを交換したり学
校生活を教え合ったりして生活や風俗の
違いに新たな驚きや興味をそそられて文
通相手をふやし始めた生徒もいる。一通
りの好奇心が満されたあとの永続をはか
るには……。

子どもたちへの期待と願いをこめて顧
問教師はこのように語る。

バドミントンクラブ

美川中学校

「スキミングと人はいう。人間同志
が教え教えられる機会は、子測の外で突
然起こる。」糟谷校長の言葉である。

「木曜日、六時限目のクラブ活動の時
間がやってくる。全員自分のラケットを
持ってグラウンドに集合する。」

少い人数だ。三年生五人、二
年生五人、一年生九人、合計
十九人のメンバーだ。すこし
寂しい。しかしいざ授業が開
始されるとみんな楽しそうな
顔になる。特に楽しいのは乱
打だ。学年の垣根を越えてと
ても楽しそうだ。こうした時、
ほんとうにこのクラブにはい
ってよかつたなあとと思う。(

生徒の作文より)

「狭い校庭も無限に広く、
不備な環境も無上の楽園と化
すには、生徒の心の持ち方に

まつことが多い。その担い手が教師であ
る。生徒は、教師のさりげないことばに
発奮し、遠い将来の自己の礎を築きはじ
める。」

糟谷校長の一語一語が心に沁みてくる。

全校朗読会

生平小学校

深い緑と乙川の清流を背景にして全校
児童の前で「ベニスの商人」のさわりの
部分を堂々と朗読する六年のA子さん。

「はいはい鳥」の一節を声高らかに読む
四年のB子ちゃん……。じつと耳を傾け
ていた子どもたちが朗読発表をめぐって
つぎつぎと厳しいけれども暖か味のある
感想発表をする。毎週月曜日朝の十五分



▲シャトルは飛ぶ。心はずむ。

間は、こうして瞬く間に過ぎていく。
「戸外で精一ぱいの声を出して読もう。
そして、ものおじしない子になろう。」
故鳥居校長の発案である。

教科書の文章の朗読から出発したが、
最近では個人読書の内容発表として、さ
わりの一節を朗読するように発展してき
た。発表者は毎回三人と限定。練習期間
は一週間ある。

「どの子も徹底的に読む練習をしてきま
すよ。まず、ひとりて納得するまで読む
つぎに、家族に聞いてもらおう。そして、学
級で聞いてもらおう。その上で暗れの舞台
その過程にこそ意味があると思っていま
す。」

小林校長の眼がきらりと輝いた。



▲心をこめて、精いっぱいの声で……。

講演要旨

ことばと教育

PL学園短大教授
川口義克

私は現代が乱世であるという考えて処しております。堅持するところのものは持たなければならぬが、時にはジグザグしながら生きていくというのが乱世ではないかと思えます。まさに中国の春秋戦国の世に匹敵する時代であり、土佐日記のあの混乱した時代を彷彿とさせられます。そういう中で、私は北畠親房の「乱世は心・ことばを慎まないから起こってくるのである」ということばを思い出さざるをえないのです。

ことばを使う面においては、内の面と外の面の二つがあります。真実を語る、信頼し合うということ、これがことばの教育の内側の最も大事なことでないかと思えます。響き合うこと、正しいものにする、これが外側の核をなすものと考えています。内なる真実なものと、外なる正しい装いとが一致するところに真なることばの姿、こ

とばの芸術があるのでございませう。

ことばというものを正しく理解するためには、一つ一つは解するのではなく、まず全体の調子を考えなければなりません。難聴の子どもに唇で話すということではなく、響き合うことばを話すことによつて、後からでも全体の調子をつかませるといふ教育があります。まさにことばの教育というものはそういうものであると見ます。全体の調子の重要な一つは、ことばの響き合いを考えると、ことばとどかと思えます。さらに進んだ段階では、沈黙しながらでもことばの調子がわかるということまで至るべきだと思います。そうしたことばはどこから来るかという、聞くということから始まるのだと思えます。これはことばの教育の出発点でございます。したがって、本を読ませるとか意味をとらせるとかい

う時は、自主的・主体的な方法が大いに尊重されなければなりませんけれども、それ以前にいい音を聞かせることが大切なのです。いいうぐいすを育てるためには、その師匠となるいいうぐいすの音を聞かせるということから始まらなければならぬのです。

われわれは一番初めに何を教

えるべきであろうか、それは愛のことばを身にしみて知らせるといふことです。心にしみるといふことばというものは、子守り歌に表現されているわけですから、聞くようになってから、わかるようになってからことばを教えるのでは遅いのです。ただ聞くだけではできない、そういう時にこそいいことばを教える

いかなければならぬのです。

しかし、いいことば・やさしいことばだけを教えていくからいかんのです。時には厳しいことば、怒ったことばが大事なのです。苦しみや憎しみの深いものにこそ愛の高さがわかるのでございませう。全体の響きを重むるというのはそういう意味をも含めたものでございませう。

全体というものが何であるか、それは一つは意味であり、一つは語調であり、一つは気分です。緩急、強弱、間、そういうあらゆる要素を持ったものが全体であります。時には時代精神であるとか、地域性であるとか、国民性であるとかを含めて、それが言葉となつていくわけにございませう。全体というのは単に直観の全体ではない。もちろん直

観的洞察というものは必要でございませうけれど、じつと噛みしめるということもございませう。ことばというものは非常に高い境地で教えられたり、いかされたらなければなりません。小学校一年は三年生ぐらいの知識があれば教えられる、そんなもんじゃあない。大学を出た先生が教えられるゆえんはそこにあるのです。

ことばというものは、その心とその姿を問題としなければなりません。この二つは別れたものではなく、同時に結合され、同じ側面のものであります。そこがわからなければなりません。

・冬期研修会講演

昭和五十年十二月二十五日

愛知県野外教育センター

かがみ

私の感傷旅行

八田恵美子

気をつけなければ聞き流してしまうK男の微妙なシエの発音。聞けば、案の定父親が九州とのこと。

九州は私の母の実家。20数年、胸に焼きついているあの家、あの道すじ、あの川と土塀のたたずまい。6年生の時の記憶が確かなら、きつと駅から一人で尋ねられるはずだと長い間思い続けていた。

昨夏秋芳洞まで出かけた職員旅行の折ひと足のばして親戚へ。謎ときしながら1人悦に入ってたどり着けば、代は変わって、だれも私の思いつきをおもしろがってはくれない。新しい思い出はふえたが、ちよっぴり物足りない。

別れのホームで、76才の伯母さんから差し出された思いもかけない握手に、ふうっと胸がせまって、車中の人となる。

2学期になつたら、K男の発音、みんなとまったく変わりなくなっていた。

(本宿小)



おしらせ

竜美丘小学校も四月開校

―大門小とともに学区も決まる―

急ピッチで建設が進められている大門小学校に続いて、竜美丘（たつみがおか）小学校の新設が決まり、四月には両校がそろって待望の開校式を挙げることになった。

新設の決まった竜美丘小は、早くに区画整理された竜美ヶ丘の用地（明大寺町坂下）に建つもので、学区は、①現男川学区

【表紙】 近藤孝太郎（一八九七―一九四九）芸術家。一個独歩の思想家であり、すぐれた教師でもあった。青年労働者に絵を教え、文学を講じ、演劇活動を通じて、人生と社会のあらゆる不正、あらゆる虚偽とたたかいぬいた凄まじいまでに個性的な生涯を過ごした。米河内町出身である。

【寄贈刊行物・資料等】
◇故鈴木真左子先生追悼文集 生平、小学校編
情熱家だった先生をしのぶ全校児童、職員、父母、卒業生、恩師の文章と、先生が残した学級通信、指導記録などを収録。
B5判、一六一ページ孔版。

◇個人雑誌「山の井」第4号 宇野 正一
掲載された童話、詩、版画、随想、郷土研究はいずれも若葉学園勤務の余暇に生まれた珠玉の作品で、筆者の多彩な創作活動を物語る。B5判八ページ、購読希望者は直接本人に。

のうちの東西町（不吹地区を除く）②羽根学区のうちの南明大寺五区③三島学区のうちの三菱社宅と通称山の手南地区で編成。開校時の規模は十三学級、四百六十人程が予定されているが、敷地二万九千九百四十四平方メートルに鉄筋三階建ての校舎（二千四百四十四平方メートル、普通教室十二、特別教室一）が完成する九月までは、それぞれ旧小学校に委託するなどの方法で授業を行なうことになる。

■市民駅伝に岩津中初優勝
（一月十八日・県岡崎総合運動場中学校分のみ六位まで）
【チーム】①岩津中A49分30秒
②矢作中A49・43 ③常盤中A51・29 ④南中A51・47 ⑤城北中A51・55 ⑥甲山中A51・58
【区間賞】一区Ⅱ鈴木英典（矢作A）10分46秒Ⅲ二区Ⅱ野々村和典（岩津A）6・25Ⅲ区Ⅱ松尾政浩（同）5・33Ⅳ区Ⅱ井沢純（同）5・42Ⅴ区Ⅱ新居利之（甲山A）7・38Ⅵ区Ⅱ日比徳浩（岩津A）6・49Ⅶ区Ⅱ近藤勉（南A）5・37

50年度市内小中学校児童・生徒の発育状況(身長、体重)

項目	性別	男											女										
		身長 (cm)											体重 (kg)										
		6	7	8	9	10	11	6	7	8	9	10	11										
小学校	50年度岡崎市平均	114.3	120.2	125.3	130.9	135.5	141.4	113.6	119.4	124.7	130.5	136.7	143.2										
	標準偏差	4.9	4.6	5.1	5.4	5.8	6.5	4.9	4.9	5.2	5.7	6.2	6.9										
	前年度岡崎市平均	113.7	120.0	125.4	130.1	135.0	140.6	113.4	119.2	125.0	130.5	135.2	143.0										
	40年度岡崎市平均	112.7	118.4	123.5	128.5	133.5	137.9	111.8	117.5	122.7	127.9	133.5	140.2										
	49年度愛知県平均	114.8	120.5	126.3	130.9	135.8	141.4	113.8	119.5	125.4	130.9	136.8	143.5										
	49年度全国平均	115.2	120.5	126.4	131.3	136.4	141.7	114.5	119.8	125.8	131.1	137.4	143.9										
中学校	50年度岡崎市平均	20.2	22.5	24.8	28.0	30.7	34.2	19.6	22.0	24.5	27.8	31.1	35.6										
	標準偏差	2.6	3.1	3.6	4.5	5.2	5.8	2.6	3.0	3.8	4.4	5.3	6.2										
	前年度岡崎市平均	20.2	21.6	25.4	26.1	30.5	32.1	19.8	21.9	25.8	26.3	30.9	35.1										
	40年度岡崎市平均	19.2	21.5	23.8	26.2	29.1	31.5	19.0	20.9	23.2	25.8	28.9	33.2										
	49年度愛知県平均	20.3	22.5	25.6	28.1	31.2	34.9	19.9	22.0	24.9	27.8	31.6	36.1										
	49年度全国平均	20.5	22.8	25.7	28.4	31.6	35.9	20.1	22.3	25.2	28.2	32.0	36.7										

項目	性別	身長 (cm)						体重 (kg)					
		男			女			男			女		
		12	13	14	12	13	14	12	13	14	12	13	14
50年度岡崎市平均	147.4	155.2	161.4	148.9	152.3	154.6	38.6	44.2	50.0	40.7	45.1	48.7	
標準偏差	7.7	8.2	7.3	6.2	5.4	5.1	7.3	7.5	8.0	7.1	6.8	3.4	
前年度岡崎市平均	147.2	154.5	160.7	148.3	152.4	154.1	38.5	44.2	49.4	40.3	45.1	48.2	
40年度岡崎市平均	144.4	151.6	158.1	146.3	149.7	152.2	36.1	41.5	46.5	38.0	42.1	45.8	
49年度愛知県平均	148.0	154.9	161.5	149.3	152.7	154.6	39.6	44.8	50.2	41.3	45.3	48.5	
49年度全国平均	148.3	155.8	161.9	149.5	153.0	154.7	39.9	45.3	50.7	41.6	45.7	48.8	

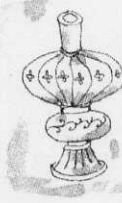
傍示石「従是東岡崎領」

下方に元文元年丙辰石工と刻まれていて、城主本多中務大輔忠良の時代に当る。岡崎市史に「欠下に筋違橋があり、ここに『従是西岡崎領』と印せる傍示杭が立っていた……。」として図が出ています。この碑と全く同じ形態である。文字三方面、船底彫とあるのも同じである。往時諸旅人がどんな気持ちでこの石碑から天主岡崎城を眺望したことであろうか。



所在地 岡崎市八帖町往還通六九

この本を



寸言

▼学芸会シーズン。郷土の伝承、歴史・偉人に取材した学校劇。校内だけで埋れていては惜しい作品も多い。

▼一雨ごとに春が寄ってくる。少年非行のニュース。すさまじい心を潤すものを人は何に求めるか。

▼今年は何年、天恵の一日と思いたい。
立春の光に向ふ心かな 阿火

●カット

早川 円浄(井田小)

数学むだばなし

新潮社 ¥ 五五〇 矢野健太郎

対談 日本語を考える

大野 晋 ¥ 三三〇

中央公論社

¥ 八八〇 松田 道雄

花 渚

¥ 二二〇 清水幾太郎

岩波書店

¥ 二二〇 荒井 勉

信州の教育

合同出版 ¥ 六八〇

存亡の条件

山本 七平 ¥ 八五〇

ことば遊び

鈴木 葉三 ¥ 三三〇

中公新書

¥ 九〇〇 多田道太郎

しぐさの日本文化

¥ 九〇〇 斎藤 喜博

筑摩書房

¥ 二二〇 斎藤 喜博

教師の資質をつくるために

¥ 二二〇 斎藤 喜博

2月の行事

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	日	市指導主事学校訪問(奥殿・秦梨)		16	月		
2	月	市教員研修の手引編集委員会(市役所)		17	火	小学校道徳授業研究会(常東小)	
3	火	特殊教育就学指導委員会(進尺小)		18	水	月報編集委員会(市役所)	
4	水	西三養教研修会(吉良町)		19	木	定例校長会(市役所)	
5	木	東海地区学校事務研究大会(7日まで・岐阜)		20	金	公立高校(全日制)願書提出(27日まで)	
6	金	市小中学校造形展(11日まで美術館)		21	土	岡教組定期大会	
7	土	市中学校サッカー大会(公園・城北)		22	日		
8	日			23	月		
9	月	研究紀要編集委員会(市役所)		24	火	六ツ美地区道徳研究中間報告会(六北小)	
10	火	(建国記念の日)市中学校サッカー大会(城北)		25	水	教職員の研修に関する委員会(市役所)	
11	水	定例教育委員会(市役所)		26	木		
12	木	西三管内教頭研修会(西三事)		27	金	防火図画作品表彰(市役所)	
13	金	教務主任研修会(葵中)		28	土	岡教組青婦定期大会	
14	土	児童・生徒優秀作文表彰(岡信本店)		29	日		
15	日						